

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 自分の考えや思いを自分の言葉で表現する力を伸ばす指導の充実
- ② 学校と家庭との連携による学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 稲富しのぶ 桑原紀子 村上裕一	委員 校長：林 義勝 教頭：清水浩三 上岡有里 教務主任：近藤勝重 学年主任：小川清晴 三橋延世 橋本光江
----------------------------------	---

校長

林 義勝

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○一般的に落ち着いた態度で、基礎的な問題や課題に意欲的に取り組むことができる。 ●新しい課題については興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができるが、反復学習においては、根気強さや意欲が不十分になっていく傾向がある。	・基礎的・基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組み、学習に対する興味・関心・意欲を身につけている。 ・学習を通して習得した知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	①自主勉強ノートや各教科における宿題などの提出物をチェックし、継続的に取り組むように指導する。 ②基礎的・基本的な内容の小テストを実施し、合格点に達しなかった生徒には補充学習を実施する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習方法がわかっていたり、指示された内容がはっきりしていたりすることに対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●答えがわかっているにもかかわらず、自分の考えや思いを表現することが苦手な生徒が多い。	・自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・課題解決のために資料や情報を効果的に活用することができる。	①授業の中で考えさせる場面や自分の考えや思いを表現させる場面を、あらゆる機会を捉えて設ける。 ②自分の考えや思いを相手に効果的に伝えるための表現の仕方を提示する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、多くの生徒が真面目に根気強く取り組み、提出することができる。 ●家庭学習の習慣が十分に定着していない生徒もいる。何をよいかわからない生徒も少なくはない。	・目標をもち、それを達成するための計画を立て、家庭学習に意欲的に取り組むことができる。	①学級担任と各教科担任がそれぞれ課題を出し、家庭学習の充実を図る。 ②生徒自らが作成した学習計画をもとに、テスト勉強に地道に取り組むことを習慣づける。 ③キャリアパスポートを利用し、機会を捉え進路を見据えた学習指導を行う。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

